

家庭裁判所調査官

～家庭や非行の問題に取り組む～



家裁調査官ってどんな仕事をしているの？

家庭裁判所調査官（家裁調査官）は、裁判所という司法の世界の中で、心理学，社会学，社会福祉学，教育学などの専門的な知識や技法を使って，家庭内の問題の解決や非行少年の立ち直りに向けた調査活動を行っています。

職場では，裁判官や裁判所書記官等とチームを組んで協力し合いながら仕事をし，必要に応じて，学校や児童相談所，保護観察所といった関係する機関の職員の方々とも連携しています。

また，家裁調査官としての経験を生かしながら組織全体の運営にも携わるなどして，家庭裁判所を支えています。

大切にしています

少年・保護者一人ひとりと向き合うこと

家裁調査官は，非行を起こした少年の性格，日頃の行動，生い立ち，少年を取り巻く環境などについて調査をして，少年がどうして非行を犯してしまったのか，また，これからどうすれば立ち直ることができるのかを考えます。

どんな調査かという点，少年や保護者と直接会って面接をし，まず，その言葉に耳を傾け，そして，必要な場合には，心理テストを行ったり，少年の家庭や学校を訪問したりして，様々な視点から情報を集めます。これらを分析し，調査の結果を書面にまとめて裁判官に報告します。

ときには，学校や児童相談所，保護観察所，弁護士など，少年を取り巻く多くの人たちと相談しながら，地域社会全体で少年の立ち直りを支え，再び非行をしないで生活するための土台作りをします。

このように少年や家族と社会の「つながり」を作ることも，家裁調査官の大切な仕事です。



少年との面接（模擬）

大切にしています

当事者の人生に寄り添うこと

子どもの思いを受け止めること

家庭裁判所には、離婚や子どもをめぐる争い、遺産分割など、家庭の中で起きた問題について、法律に基づく解決を求める多くの人たちが訪れます。家裁調査官は、現在起きている問題だけでなく、これまでの様々な事情や、これからの家族のことにも思いをめぐらせながら、家族に起きた問題を解決し、それぞれが新たな一歩を踏み出すための助けとなるよう、調査を行い、必要な調整をします。



子どもとの面接（模擬）

例えば、両親が親権を争っている子どもと面接し、その思いをよく聴いて裁判官や両親に伝えたり、子どもの幸せを最優先した解決の方法について助言したりします。

子どもたちは、複雑な気持ちを抑えて、表面上は元気にふるまっていることもあります。家裁調査官としては、言葉になるもの、ならないものを含めて、子どもからのたくさんのメッセージを受け取り、家庭裁判所の手続に反映させて、子どもが将来、幸せに暮らせるような解決を目指します。

家裁調査官になるには？

裁判所職員採用総合職試験（家庭裁判所調査官補，院卒者区分・大卒程度区分）を受ける必要があります。試験に合格し，家裁調査官補として各地の家庭裁判所に採用されると，全員が裁判所職員総合研修所に入所します。約2年間の養成課程研修において，家裁調査官になるための専門的な知識や技法を学び，その間には，採用された家庭裁判所で約1年間，上司の指導のもと，実際の事件を通じた修習も行います。

養成課程を修了し，家裁調査官となった後も，職場でのOJTに加え，様々な研修が実施されており，より高い専門性を身に付けることができる環境が整えられています。

家裁調査官の仕事に
興味がある方へ



裁判所ウェブサイトには，家裁調査官の仕事について紹介したリーフレットや，採用試験に関する案内が掲載されています。

(<http://www.courts.go.jp/saiyo/pamphlet/index.html>)